1　課題名　養殖衛生管理体制整備（海面）
2　区　分　国交付金（国費：県費＝1：1）
3　期　間　平成15～26年度
4　担　当　増養殖部（古川豊和）
5　目　的

養殖魚介類の防疫指導を適切に行うことで，疾病のまん延防止を図り，安心・安全な生産・供給体制を確立する．

6　成果の要約

（1）成果の概要

養殖場の巡回指導　県内を北部（湯浅湾・由良湾），中部（田辺湾），南部（串本浅海漁場・大島・須江養殖漁場）および東部（浦神湾・森浦湾・勝浦湾）の4海域に分け，毎月1回ずつ防疫パトロールを実施した．

水産用医薬品残留検査　マダイ養殖における水産用医薬品適正使用指導に資するため，平成22年11月16日・17日に養殖マダイを田辺湾（1歳魚，平均魚体重1.0 kg）および串本浅海漁場（2歳魚，魚体重2.0kg）から5尾ずつサンプリングし，筋肉中の塩酸オキシテトラサイクリンの残留検査を行ったが，いずれも検出されなかった．

魚病検査

1）持ち込み病魚の検査　検査件数は15魚種87件であった．

魚種別ではマダイが31件で最も多く，次いでクロマグロ15件，クエ9件，ヒラメ8件で，これら4魚種で全体の約72.4 %を占めていた。月別に見ると7～10月の高水温期に多く，全体の約59.8%を占めていた．

2）魚種別魚病発生状況　カンパチでは血管内吸虫症とビバギナ症の合併症が3月に1件見られた．

マダイではイリドウイルス病が単独またはエピテリオシスチス症との合併症で8月と11月に合計4件発生した．細菌病は単独およびウイルス病や寄生虫病との合併症で23件見られ，そのうち，ビブリオ病1件，エドワジエラ症4件，滑走細菌症1件，エピテリオシスチス症17件であった。寄生虫病は発生件数19件で，ビバギナ，ラメロディスカス，トリコジナ，クビナガ鉤頭虫，イクチオボド，スクーチカの寄生が見られ，近年多様化している．

ヒラメではイリドウイルス病がトリコジナ症との合併症で7月に2件発生した．細菌病は連鎖球菌症とエドワジェラ症がそれぞれ単独で7月に1件ずつ見られ，エドワジエラ症と連鎖球菌症の合併症が6月と7月に1件ずつ見られた．寄生虫病は海産白点病が6月に，スクーチカ症とトリコジナ症の合併症が2月に見られた．

トラフグでは寄生虫病である粘液胞子虫性やせ病が8月と11月に発生し，スクーチカ症が3月に見られた．

シマアジではウイルス性神経壊死症が11月に発生し，細菌病は連鎖球菌症とエピテリオシスチス症の合併症が6月と8月に1件ずつ見られた．

クエでは8～10月にかけてウイルス性神経壊死症が8件発生し，スクーチカ症と滑走細菌症の合併症が4月に見られた．

クロマグロではイリドウイルス病が7月に1件発生した．細菌病はビブリオ病が単独または血管内吸虫症との合併症で10月に2件見られ，寄生虫病は血管内吸虫症が単独またはビブリオ病との合併症で9,10,1月に合計7件見られた．また，8月には骨折による死亡が2件見られた．

イサキでは細菌病のエピテリオシスチス症が7月に単独で発生し，連鎖球菌症とエピテリオシスチス症の合併症が7月と8月に1件ずつ見られた。寄生虫病は7月に海産白点病が見られた．

マアジでは10月に連鎖球菌症が見られ，メガイアワビでは5月に細菌感染症，8月にビブリオ病が見られた．

健康診断　診断件数は10魚種64件であった。このうち，水産用ワクチン接種前の健康診断は3魚種3件であった．

魚種別に見ると，マダイが中間魚と稚魚を合わせて38件と全体の約59.4 %を占め，次いでトラフグが10件，カンパチが5件と続いている．

マダイでは稚魚でエピテリオシスチス，ビバギナ，ラメロディスカスおよびトリコジナの寄生が確認され，中間魚ではこれらの他に，エドワジェラ症およびクビナガ鉤頭虫の寄生が見られた．

7　成果の取り扱い

（1）成果の普及

防疫パトロールで魚病対策指導および水産用医薬品の適正使用指導を行った．

（2）成果の発表

平成22年度瀬戸内海・四国ブロック魚病検討会

平成22年度養殖衛生管理体制整備事業太平洋ブロック地域合同検討会

平成22年度県内養殖衛生対策会議